

墾額ハ五萬九千七百八十斛三斗一升四合二勺、是ハ天明六年易邑後改リ、翌七年官へ書出ル數ニテ、正徳元年書出ル開墾額トハ、百三十九斛三斗八升四合二勺ノ過數アリ、當時モ尤同然也。貞享元年ノ高辻ニハ、官へ書出ル新田額四万五千五百零二石七斗ナリ、然ルニ貞享元年以後是ニ又新開額一萬四千三百三十八石二斗三升ヲ増加シ、正徳元年書出ル二新田都合五万九千六百四十三斛九斗ナリ、

〔拾芥集一〕御名 日野小左衛門御代官所 能登國

高壹万四千石餘

右之所、御代官被仰付候内、從當年御預所被仰付候間、口米をも可被所務候、御仕置其外諸事入念可被申付候、且又御勘定奉行より追而村附帳相渡可申候、村方江請取候義者、村附帳相渡候、已後右御代官より可引渡之候、

但右御預所之内、給領などに相渡義有之候ハ、御勘定奉行より可相達候之間、可被得其意候、以上○中略帳面上書

能登國羽咋、鹿島、珠洲郡之内、鄉村高帳

能登國羽咋郡 一高四千貳百三拾八石八斗壹勺

同國鹿島郡 一高四千五百七拾九石九斗四升七合四勺

同國鳳至郡 一高四千九百七拾石六斗五升六合

同國珠洲郡 一高貳百三拾五石壹斗四升三合

高合壹万四千貳拾四石五斗四升三合八勺

右者從當寅年御預所ニ成候間、日野小左衛門江相達、鄉村請取之御仕置可被申付候、村方相改、存寄於有之者、可被相窺候、尤當從御物成可有御勘定候、以上、

享保七年寅六月

木村四郎兵衛印略○下

〔日本鹿子〕能登國、四郡、上小國、東西、二日半、知行高二十一万六千九百九十石、